NIJI
虹
国見町立
県北中学校
R2.3.11（水）
第 44 号
３学年だより

3月11日、東日本大震災。忘れることのできない1日。

９年前の、3月11日、午後2時46分、東日本を大きな揺れが襲いました。東日本大震災が起きた時です。あれから、9年が経ちます。

3年生の皆さんは、自宅にいたり、幼稚園にいたり、１人ではなかったはずです。あの時の大きな揺れは未だかつてないすさまじいものでした。いったい何が起こったのか、この揺れは収まるのか・・

揺れが収まったあと、テレビの画面に映し出された映像は、本当に日本で起きていることなのかと愕然とした記憶があります。

津波で多くの命が奪われました。福島県は、原発事故が発生し、多くの方が自分の慣れ親しんだふるさとを離れ、新しい土地で、新しい生活を余儀なくされました。

電気・ガス・水道が止まり、今まで当たり前と思っていたものが、なくなる不自由さ。いかに当たり前の生活が有難いものかを感じさせられました。

その後、外での活動が制限され、学校生活が始まってもいつもの日常は戻ってきませんでした。

修学旅行が夏になり、中体連はいきなり地区大会になり、限られた施設をみんなで使い、中体連に備えたことを思い出します。

小学6年生は、卒業式ができずいきなり中学生に。1つ1つの行事も削減され、この先いったいどうなるのか、先の見えない新年度をスタートさせました。

震災当日、東京では多くの帰宅難民者が出ました。多くの方が、黙々とただただ自宅を目指して歩いて帰りました。道路沿いにあるトヨタの販売店では、トイレの開放や無料の休憩所を開設したところもありました。また、無料のパン・お茶などを提供した病院もあったそうです。さらには、道路沿いの自宅からおじさんやおばさんが出てきて「休んでいきなさい」と声をかけ、手招きしてくれた人も。不安で仕方がなかった徒歩での帰宅者は、人の温かさが心にしみたそうです。

また、数年前の大雪で、幹線道路が大渋滞を起こした際、避難している飯館村のお母さん方が、立往生している運転手さんのために「おにぎりをたくさん作って配って歩いたそうです。受け取った運転手さんの中には、「命のおにぎりだ」と言って、涙を流しながら食べた人もいたそうです。しなければいけなかったのではありません。そうしないではいられなかったのです。私たちにはそういう人間性、国民性がいつの間にか宿っているのです。

昨年の台風19号は、東北地方にも大きな被害をもたらしました。東日本大震災に続いて、二回目という方も多かったやに聞いています。

そんな状況の中で、日本全国からボランティアとして多くの方々が被災地に足を運んでくれました。

広島からきた女性の方は、金曜日の夕方に飛行機で仙台に入り、2泊3日ボランティア活動をしてくれました。広島県で起きた台風の被害の時、全国国各地から多くのボランティアの方々が足を運んでくださり、作業を行ってくれたそうです。その時どれだけ助けられたか。感謝の気持ちでいっぱいだったと。今度は自分の番。その時に受けた恩をお返しする時と思い、参加したそうです。

またある男性の方は、福岡から電車を乗り継いで、ボランティアをしながら新潟や栃木を回り、最後は白石にきたそうです。途中で、軽トラックが必要という情報をキャッチし、中古の軽トラックを購入して、来てくれました。

人と人とのつながり、お互いさまという思い、大切にしたい思いです。

3月11日。特別な忘れることができない1日です人とのつながりの大切さ、自分に今何ができるのかを考え、行動する決断力、そして日常の当たり前に感謝する心を再度確認してみてはいかがでしょうか。

黙とうを捧げながら、心のどこかに記憶を忘れずに残し、前を向いて歩いていこうと思います。

３学年主任　今村恵美子